

0022-05

会場:303

時間:5月23日 09:30-09:45

第2回日本ジオパーク大会を迎える洞爺湖有珠山世界ジオパーク

Toya Caldera and Usu Volcano Global Geopark Welcomes You to the 2nd Japan Geopark Network Convention Sep.29-Oct.1, 2011

田鍋 敏也¹, 原口 ゆみ子¹, 野呂 圭一¹, 高橋 俊也¹, 加賀谷 にな^{1*}, 宇井 忠英², 大島 直行¹, 三松 三朗¹, 岡田 弘²
Toshiya Tanabe¹, Yumiko Haraguchi¹, Keiichi Noro¹, Toshiya Takahashi¹, Nire Kagaya^{1*}, Tadahide Ui², Naoyuki Ohshima¹, Saburo Mimatsu¹, Hiromu Okada²

¹ 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会, ²NPO 環境防災総合政策研究機構

¹Toya-Usu Global Geopark Council, ²NPO CeMI

洞爺湖有珠山ジオパークは、支笏洞爺国立公園の西側を含む北海道南西部に位置し、年間を通して約 687 万人の観光客（2009 年実績、全道の 5.2 %）、約 20 万人の外国人宿泊客（10 %）を迎えている大観光地である。

有珠山は 1663 年以降分かつていただけでも 9 回にわたり噴火活動を繰り返しており、20 世紀にも 4 回の噴火が発生した。直近の 2000 年有珠山噴火は地域に多大な影響を与えたが、幸い死傷者はゼロであった。この背景には、過去の噴火から地域の特性を学び、官学民で自然と親しみ、自然と共生をめざしてきた長い歴史があった。とりわけ、1977 年噴火災害に学び、1983 年以降続けられている子供郷土史講座や、地域の自然環境と親しむフィールド学習プログラムが、大きな役割を果たした。

地球の活動、地域の自然を理解し、必要な時に正確な理解に基づいた行動ができることは、自然災害を軽減し、地球との共生を図る 21 世紀の課題である。当地域では、縄文人やアイヌの人々が築いてきた歴史を引き継ぎ、変動する大地との共生の文化を育み、次世代に継承し、観光における町づくりに生かすことがきわめて重要と考える。

2000 年有珠山噴火の復興計画の中で、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町の 4 市町では官学民の連携で、洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想（地域まるごと自然博物館）を策定し、国、北海道とともに共通の理念で取り組んできた。この時期、世界ではユネスコの支援の下でジオパークの取り組みが新たに始まっていた。

ジオパークとこの地域で取り組んできたエコミュージアムの基本理念が一致していることから、2007 年に「洞爺湖有珠山ジオパーク」の推進に切り替え、取組を強化した。その結果、2009 年 8 月 22 日、島原系魚川と並んで世界ジオパークネットワークへの国内初の登録を果たした。

「変動する大地との共生」がメインテーマである洞爺湖有珠山ジオパークでは、従来にも増して、展示拠点やフットパス、解説看板やリーフレットなどの整備を進めている。壮大な自然の営みと私たちの生活の密接な関わりを、フィールドで手軽に楽しみ学び、農水産品、温泉などの大地の恵みを堪能し、パワーをリフレッシュできるような魅力ある観光地づくりが、この地域のジオパークの目標となっている。

火山の恵みと災害は裏腹の関係にある。正確で魅力ある解説やジオパークの支援に当たる人材育成のため、道庁の支援により、火山マイスターの制度が取り入れられた。過去 3 年間で 16 名が洞爺湖有珠山火山マイスターとして登録された。山の静かな時は、ジオパークを支え、いつでも次の噴火を安全に迎えることができる地域づくりが目標である。

2011 年 9 月 29 日から 10 月 1 日まで、この洞爺湖有珠山ジオパークで第 2 回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会が開催される。多くの方に参加いただき、議論や助言をお願いいたします。

キーワード: 洞爺湖, 有珠山, ジオパーク, 火山, 共生, 防災

Keywords: toya, usu, geopark, volcano, co-existence, disaster prevention